



私たちは、福島を忘れない！ つながらう、広げよう！



詳しくは、同封のチラシ、事務局便りを見てね。

「放射能と闘う、東電と闘う、国と闘う。その姿を、電気を使っていたみんなにわかってもらいたい」「原発が僕らの人生をめちゃくちゃにしまいました！」…渋谷のハチ公前で、首相官邸前で、「希望の牧場・ふくしま」代表・吉沢正巳さんの絶叫はズシンと胸に響く。

紆余曲折の後、ようやく生業である畜産業が軌道に乗ったところに、福島第一原発事故が起きた。

被曝し、経済価値がなくなってしまった牛。多くの畜産家が、国の殺処分の指示に同意せざるを得なかった現実の中で、警戒区域内で自ら被曝しながら原発の生き証人である牛たちを生かすことを選択した吉沢さんは、いまま約400頭の牛とともに、牛を生かす意味を問いながら、孤軍奮闘している。



写真すべて：フォトジャーナリスト 山本宗補

— 以下は「希望の牧場」元事務局長・針谷勉さんが昨年12月28日の希望の牧場ホームページに記載したブログ。このような現実が進行中です。 —

今月(2012年12月)7日にあった当牧場と農水省と県との話合いの場で双葉町内の放れ牛約20頭(=A農家さん所有分)を来年早々、当牧場で引き取ることが決まったその後、双葉町から当牧場に対し、立ち入り申請書提出の依頼があり、町の規定に則って同書を今週提出した。ところが今日、双葉町から以下の旨電話があった。

「双葉町内に事業所のないものに立ち入り許可証は出せない、町内に事業所のある人の名前で申請書を出してほしい。また立ち入り者名簿のなかにジャーナリストの氏名があったが、ジャーナリストの立ち入りは認められない」旨、オフサイトセンター(各原発ごとに設置されている緊急事態応急対策拠点施設)が言っている」と。またも妨害だ。

希望の牧場は浪江町にあり、それ以外に事業所などない。またこれは希望の牧場の正当な活動なのに、どうして歪んだ申請(はっきり言えば、嘘の申請)をするよう役場が求めるのか。まるで理解できない。ここで指摘されているジャーナリストとは私のことなのか？ 私の仕事はジャーナリストである。その何が問題なのか。



希望の牧場はこれまでも農家から依頼があるたびに放れ牛や殺処分柵に捕まった牛の移送や保護活動を行ってきた。そもそも福島第一原発から半径 20 キロ圏内の家畜の移動は自由だ。違法でも何でもない。楢葉町から今年 6 月末、やまゆりファーム（旧ファームアルカディア）の牛 67 頭を希望の牧場で移送・保護した際もオフサイトセンターは嫌がらせを企て、前日の夜になって「明日の牛の移動は認めない」などと言ってきたが、私たちはこれを承服せず、立ち入り許可証なしで移送・保護を成し遂げ、結果、67 頭の牛の命をつなぐことができた。町、県、国はこのとき、私たちの活動目的、活動内容の正当性・合法性を最終的に認めざるを得なかったのだ。なのになぜ、また同じような妨害を繰り返すのか。彼らはばかなのか。

双葉町の担当者は立ち入り許可の是非について「実質はオフサイトセンターがすべて取り仕切っている。今回のこともオフサイトセンターが決めたこと」旨断言している。今回の双葉町の放れ牛 20 頭の移送・保護については今年夏ころ、所有者の A 農家さんから直接依頼されていたことでもある。

今月 7 日の話会いの場で農水省の役人は「（希望の牧場は）悪いことはすべてうちのせいにするから困る（苦笑）」と漏らしていた。それならば、所有者から依頼があり、農水省と県との話会いの場で決まった移送・保護計画に対し、なぜ「待った」がかかるのか。誰が待ったをかけているのか。

オフサイトセンターに聞いた。「町と協議の上、双葉に事業所のないものに許可証は出さないと決めている」担当者はそう言って一方的に電話を切った。次いで農水省に電話した。「確認してみます」と担当者。

吉沢の被疑者扱いにしろ、今回の件にしろ、もういい加減にしてほしい。あまり言いたくはないが、放れ牛が民家を荒らしたり、交通事故を起こすなどして困っているのは農家を含めた住民。その対応に苦慮しているのは町。では放れ牛を生んだのは誰か？ 東電と原発を推進した国だろう。そして本来、国がやるべきこと（放れ牛の移送・保護など）を代わりにやってきたのは希望の牧場だ。それをいまになってもあーだこーだと妨害するのなら、あとは勝手にやらせていただく。

希望の牧場約 30 ヘクタールの敷地で現在約 400 頭の牛が保護されている。正直余所の牛を受け入れる余裕はない。いまでさえ餌も人手も足りていないのだ。食い負けして死ぬ牛もいる。そうした状況を理解してくれた上でそれでもなお「殺処分よりはましだ。うちの牛を引き受けてくれないか」と農家さんは言う。役人は、放れ牛にせざるを得なかった農家、殺処分に応じた農家、被ばくを顧みずいまま牛の世話を続ける農家の無念を知れ！

針谷 勉

参考書籍

『原発一揆

—警戒区域で
闘い続ける

“ベコ屋”の記録—

針谷 勉 著

吉沢代表やその仲間たちの
活動の 1 年半の記録。

サイゾー出版

1,365 円税込



山本宗補

フォトルポルタージュ

『鎮魂と抗い

～3・11後の人びと～』

津波と原発事故による
計り知れない被害を取
材。写真の持つ力と写
真では伝わらない情報
を本文で補う。

彩流社

カラー 2500 円 + 税

